

令和 7 年度 愛知県相談支援従事者主任研修

【講義・演習】

グループ・スーパービジョン

社会福祉法人 半田市社会福祉協議会
半田市障がい者相談支援センター

徳山 勝

本研修の目的

(1) ねらい

- ・自身の課題をスーパーバイザーに話し、スーパーバイザーはそれを受け止め、新たな気づきにつなげ、成長を促す。
- ・過去に接した自身の事例をスーパーバイザーに話し、グループメンバーに自分ならどうしたか、全く自由な立場で意見を述べ、事例提供者に返しなが、共に新たな気づきにつなげることで成長を促す。

(2) 取得目標

- ・相談援助に必要なスーパービジョンについて説明できる。
- ・コンサルテーション（経験則でのアドバイス）とスーパービジョンの違いが説明できる。
- ・自己の実践を検証し、他者からの視点が入ることで支援の質が向上することを理解する。
- ・スーパービジョンでの新たな気づきを、必ず実践に反映、応用することが重要なことを理解する。
- ・ストレングス（生きる力の源）を活用した支援について理解する。
- ・福祉サービス以外の資源（ありふれた資源）も活用した支援の必要性を説明できる。

タイムスケジュール

14 : 25 ~ 15 : 55 (90) 講義・演習

15 : 55 ~ 16 : 05 (10) 休憩

16 : 05 ~ 17 : 15 (70) グループスパービジョン

社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会

中川区障害者基幹相談支援センター 渡邊理恵子 氏

17 : 15 ~ 17 : 20 (5) まとめ

ストレングス・モデルとは

カンザスで発展した包括的なケースマネジメントの技法・システム

歴史

脱施設化とホームレス化⇒ケースマネジメント

哲学

その人を見る方法であり、

そして、

その方法はその人との関係性のなかにある。

原則

1. 人々はリカバリーし、生活を改善し高めることができる。
2. 焦点は欠陥ではなく、個人のストレングス（長所）である。
3. クライアントこそが支援関係の監督者である。
4. 関係性が根本であり本質である。
5. われわれの仕事の主要な場所は地域である。
6. 地域を資源のオアシスとしてとらえる



SECTION1

新しい生き方の再発見

RECOVERY

STRENGTHS MODEL CASE MANAGEMENT TRAINING MANUAL



演習 1

- ▶ みなさんは、過去に悲しかったことや辛かったことなど、困難な状況を経験をしたことがありますか？
- ▶ どのようにして、困難な状況を克服してきましたか。
- ▶ 相談に来た利用者はどうでしょうか
- ▶ みなさんの経験と違いはありますか？

再発見（リカバリー）の道

～障害のある人と関わる上で大切なこと：共感的理解を生み出すには～

「リカバリー」

病気や障害によって希望を見失っても、今の状況を受けとめ、
自分らしい生き方を再発見する過程

1. 障害のある人が新しい**生き方の再発見（リカバリー）**ができると**信じる**こと
2. 障害のある人が生き方を**自分で決める**ことが出来ることを**信じる**こと
3. 障害のある人が生き方を**自分で選択する**ことが出来ることと**信じる**こと
4. 障害のある人が新しい生き方の再発見（リカバリー）の歩みを**尊敬**すること
 - 1）利用者の新しい人生の再発見（リカバリー）を信じている態度を示す
 - 2）コミュニケーションと言語
5. 障害のある人が新しい生き方の再発見（リカバリー）をするプロセスは、
回り道をしながら少しずつ進む（**一直線ではない**）

A photograph of a waterfall in a dense forest. The water is white and foamy as it falls from a rocky ledge. The surrounding trees are lush green, and the scene is captured with a long exposure, giving the water a soft, ethereal appearance.

希望はリカバリーに欠くことができません。

絶望は病気以上に私たちを無力にするからです。

パット・デューガンさんの言葉より

心の糧

(PERSONAL MEDICINE)

- ▶ **心の糧** (Personal Medicine) は、
私たちの生活をよくするために、日常生活の中で私たちが行うことです。
仕事、コミュニティ、家族のように、大きく重要なものです。
私たちの生活の中で喜びを加えるために、好きなガーデニングやペットと遊ぶこと、
ジョギングなど、その人が日常の些細なことであっても大切になります。
- ▶ **心の糧** (Personal Medicine) は、
個人的なもので、私たち各自の特有なものを反映します。
最終的に私たちが個々で徴候を管理し、かつ病院に戻るような望まれない
結果を回避するのを助けます。

演習2 【皆さんの心の糧】

心の糧		有効な活動 (どのように役立ちますか?)	上位3つを 共有する。
例：あなたが快適に感じること	公園の散歩	自然との結びつきを感じ、気持ちを切り替える	
あなたが快適に感じること			
意義ある生活にするために行なうこと			
自分自身が行なうことで快適になること			
日々の生活の中で楽しんで行なうこと			
あなたが不快に思うときに役立つこと			
人生の中で最も重要なこと			



SECTION2

ストレングス視点に基づいたアセスメント

STRENGTHS ASSESSMENT

STRENGTHS MODEL CASE MANAGEMENT TRAINING MANUAL



「ストレングスの原則」

焦点は欠陥ではなく、個人のストレングス（長所）である

- 人はそれぞれが持つ興味・関心や向上心、そして長所に基づいて成長する。
- 人は、人生をうまく生きるために家族や地域が有する資源を使う。
- 人は、得意なこと、楽しめること、自分にとって意味のあることに時間を使う傾向がある。
- 長所に焦点をあてることは、行動の動機付けを強める。
- 弱い部分に焦点をあてることは、絶望や憂鬱といった感情を強める。
- スtrenグスモデルは個の確立（自立）を助ける。
- （焦点化することで）目標に対する（多くの）漠然としたアプローチを制限できる。

【個人】

熱望：仕事をして稼ぎたい

能力：ピッキングが得意

自信：ほめられるとうれしい
しやる気が出る

【環境】

機会：自分の生き方を再発見
する機会がある

関係：年上の人にかわいがら
れる

資源：障害者雇用に熱心な企
業がある



得意なピッキングの仕
事をはじめた。

得意だと思っていたが、
もっと頑張れるはずだ
と焦ってしまった。

まわりの人は良くでき
ていると言ってくれた
が、疲れてしまった。

何のために働いている
のだろう。



以前のように稼いだお金で、
友だちと旅行に行きたい。

ピッキングはもともとは苦手
だった。でも、引っ張ってく
れる友だちがいたんだ。

実は、仕事も少し厳しく言っ
てくれると僕のことを見てく
れている気がするんだ。

苦手な作業もコツコツやりと
げたあとは爽快なんだよ。

チャレンジしてうまくできて
ほめられると元気がでるよね。

目標の再設定
環境の調整

ストレングスの種類

(例) Aさんの4つの側面 スtrenグスは対話と関係性から・・・。

・ 性格・人柄／個人的特性	才能・素質	環境のストレングス	興味・関心／向上心
<ul style="list-style-type: none"> 正直，うそをつかない 思いやりがある 希望を持っている 勤勉，よく働く 我慢強い 繊細，神経質 話好き 友好的，愛想がよい 喜んで人の手伝いをする 	<ul style="list-style-type: none"> トランプの達人 計算やお金の管理が上手 自動車の修理(整備)ができる 石垣を組み上げることができる フラワーアレンジができる 有名な大リーグ選手についてすべて知っている コンピューターが得意 ロックミュージックについて詳しい 優れた記憶力 	<ul style="list-style-type: none"> 家が居心地の良い安心できる場所である 親身になって心配してくれる人がいる（ブラザートムのような人がいる。：アメリカのテレビドラマの登場人物。過去に犯した過ちを悔いて牧師となり、自動車修理工場を営出し出所した元受刑者たちに働く機会を提供している） 親友と呼べるペット(犬)がいる 2年前までは地域社会に溶け込んでいた 教会や集会など（信仰者が集まる場所） 自分にも居場所があることを分らせてくれるホットラインがある(電話での相談窓口)がある 	<ul style="list-style-type: none"> ロックスターになりたい 魚釣りが好き DVDで古い映画をみるのが好き コーヒーショップで時間を費やすのが好き 姪ともっと一緒に過ごしたい 近いうちに自分の車を持ちたい

演習3 会話をしながらストレングスを見出します

2人ペアになって会話をしながら相手のストレングスを見出します。

性格・人柄／個人的特性

才能・素質

環境のストレングス

興味・関心／向上心

ストレングスアセスメント表

【●】 本人の言葉 【○】 家族などの言葉 【・】 事実や行動（社会的資源など）

岡田 浩（オカダ ヒロシ）さん（仮名） 35歳

現在のストレングス 現在持っている私のストレングスは何ですか？（例えば、才能、技術、個人的・環境的資源）	希望と願望 私の人生・生活に必要としているものは？	過去利用した資源 - 個人的、社会的、環境的な資源 私が今までに利用したことがある資源とその時のストレングスは？
家庭/日常生活		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は年金と母の援助で生計を立てている。 ・ アパートで一人暮らし。 ・ 近くに駅・コンビニ・スーパーがある。 ・ ヘルパーの支援を活用している。 ● 「インターネットは使いこなせる」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「私は自分で稼いだお金で 生計を立てていきたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外の国立大学に進学してアパートで独り暮らしをしていた。 ・ 就労継続Bを1年間利用していた。 ● 「料理をするのは好き」 ○ 「就労継続Bをやめるまでは（母と）仲が良かった」と言われて育った
経済生活		
仕事／教育		
支援的な関係		
健康状態		
余暇／娯楽		
生きがい／大切にしている価値		

本人の名前:西村 崇（仮名）		
A 現在のストレングス 私の今のストレングス 個人：環境	B （未来の）希望：願望：熱望 何がしたいか：何がほしいか	C 過去の資源 どんなストレングスを使ってきたか
家・生活環境（住居、日常生活、移動手段、行動範囲など）		
<ul style="list-style-type: none"> ●「お父さんとの2人暮らしです。」 ●「平日は、通所施設に自転車で通っています。天気が悪いと時間通りに行けない。」 ●「自転車で、買い物やパチンコに行きます。」 ●「電車は、ここ数年乗っていないですね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「お金があって、食べる物がある普通の暮らしがしたいな。」 ●「パチンコをしていると欲が出ちゃうけど、生活に欲は持たないようにしようと思う。」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「お父さんの仕事の関係で、引っ越しをすることがよくありました。」 ●「こっちに住むようになって、30年位になります。」 ●「小中学校は、特殊学級でした。高校には行かなかった。」
経済状況		
<ul style="list-style-type: none"> ●「自分の年金とお父さんの年金で生活してます。」 ●「年金の管理はお父さんがしています。後は自分で考えて使っています。」 ●「閉店する頃にスーパーへ行って、安くなった物を買ってる。」 <p>○父 「お金のやりくりは、俺がなんとかするから」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「年金の支給額がどんどん減ってくるとなると心配なんだよな。」 ●「お金があれば、生活に困らないでやっていく自信はあるんだけどな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「中学卒業後、住み込みで5年働いた。左官屋さん。でも会社から給料をピンはねされた。本当にひどかったな。その会社は、後で問題になって、税金取られていたな。」 ●「その後働いた所では、1日に12,000円貰っていた。」 ●「皿洗いはうまくいったんだよね」
希望 お父さんを安心させたい		

ストレングスアセスメント表の重要な構成要素

【内容】

- 利用者にとって意義ある重要な文脈のなかで書かれている
- 利用者に希望を生じさせる
- 記述が綿密で、詳細で、具体的である
- 利用者の視点や言葉で書かれている

【過程】

- 利用者のペースで展開される
- 利用者と支援者との対話形式で実施される
- 可能な限り利用者にとって自然な雰囲気の中で行う
- 継続的な過程であり、定期的にアセスメントの情報は見直し更新される

ストレングスアセスメントの多様な使い方

ストレングスアセスメント表は次のことをするツールとして使われる

- 初期の関係づくりの一環として相手をよく知る
- 支援関係を開始するための流れをつくり出す
- 利用者が自分の新しい生き方の再発見への道程を心に描き、その道程に通じる
- 利用者のよい側面を強調する
- 目標を達成するために利用者個別の方法を開発する
- 利用者が何かを達成するたびに評価し、ほめる
- 利用者の人生のかなえは平凡で何気なく見えるものでも、新しい生き方の再発見に役立つものであれば光を当てる



SECTION3

関係づくり：利用者との信頼関係をつくる

RELATIONSHIP AND ENGAGEMENT

STRENGTHS MODEL CASE MANAGEMENT TRAINING MANUAL



「みなさんの人生の中で、誰かに助けてもらった経験を思い出してください。」

- どんな時に
- 誰に
- どのように 助けてもらいましたか

- そのときの相手の態度はどのようなでしたか。

支援的な関係の重要な要素

関係性が根本であり、本質。

- 目的にむかって進むこと (Purposeful)
利用者が新しい生き方の再発見することを支援する。
関係は目的志向。計画を共有し、協働する。
- 相互に利益を得ること 対等な関係・互惠 (Reciprocal)
相談支援従事者は、リカバリーの旅において…
斡旋する旅行会社より、旅行仲間のような役割
互いに学びあいともに楽しんで旅行をする。
- 誠実な関係づくり 純粹・こころから親身になる (Genuine)
「普通の友好関係」であり、温かさ・受容・気遣い・尊重・楽しさがある。
双方を高めるもの。

支援的な関係の重要な要素

▶ 信頼のある関係づくり (Trusting)

関係性は、相互信頼と尊敬にもとづく。

「一緒にしませんか」と誘う。「してもいいですか」と許可を得る。

透明性、正直さ、約束が守られる。お互いの経験をわかちあう。

▶ エンパワメントを促す関係づくり (Empowering)

- 力づける関係とは、利用者が自分を確立し、自己決定を行い、失敗する権利を行使する、情報を入手するといった領域において、その人自身の持っている力を発揮するよう手助けをすることである。
- 利用者が自分を信じ、選択の自由を自覚し、その機会をもつこと。

SECTION4

目標を一緒に設定するには 利用者の持っている思いを解き放つために

GOAL PLANNING

STRENGTHS MODEL CASE MANAGEMENT TRAINING MANUAL



「みなさんがこれまでに考えていた夢を教えてください。」

- みなさんはどんな夢をもっていましたか

- その夢をあきらめたのはどうしてですか

目標と一緒に設定するには

利用者本人こそが支援過程の監督者である。

- 目標を設定する際に重要なこと
 - ① 興味や強い望み（desire）
 - ② ゴール達成に必要な技術
 - ③ 自信
 - ④ 環境の資源
- その人にとって重要な意味があり、情熱をもって取り組むことができる。
- 良い長期的なゴールは情熱、希望、夢が反映されている。
- Desireがその人自身の言葉で書かれているか。
- 本人のゴールについて議論するのではなく、受け止めて、そのために必要なことを考える。

なぜ地域に普通にある資源を利用するのか？

地域に普通にある資源を利用する利点

- 誰もが使う資源を使うことで、参加や、生活する機会が増える
- 地域に定着したように感じられる
- 個別的な支援の輪を作り提供できる
- 人為的に隔離された環境よりも地域社会への参加を促進できる
- 生涯支え合える人間関係を作る可能性が開かれる
- 希望と新しい生き方の再発見が促進される
- 支援者にとってもより目的のあるやりがいのあるものとなる

SECTION7

グループの力を用いたスーパービジョン

GROUP SUPERVISION

STRENGTHS MODEL CASE MANAGEMENT TRAINING MANUAL



グループスーパービジョン（GSV）の目的と効果

- （１）支持と肯定 同じ使命と挑戦の共有
- （２）アイデア 豊かな代替策を生み出す
- （３）学習 応用を学ぶ

- スーパーバイザー

アイデアの選択肢に関わる自由な立場にいる。

- GSVメンバー

実践のなかで生じる多様な選択肢を聞き取る利点をもっています。

- スーパーバイザー（GSVではファシリテーター役）

回答する役割でなく回答がみつからないうまくいかないことも受け入れ、スーパーバイザーと一緒に悩む役割も担う。支援をプログラムや政策レベルに広げるために利用者個人の障壁だけでなく、他の利用者にとっても見出される幅広い選択肢の知識を持つことが重要。

GSV グループの力を用いたスーパービジョン

基本的にはGSVは困難ケースには向きません。

具体的には、

- 1、虐待・自己破産など緊急性、介入性の高い事例。
- 2、触法、犯罪に関係する事例。
- 3、支援者が拒否される接触困難事例などです。

適している事例は、とりあえず何かしたいが何をしてもいいかわからないケースです。例えば、

- 1、長期的な支援（就労・地域移行・地域生活）で生きがいや生きる意欲が問われてくる場合。
- 2、趣味やレクリエーション、友人関係などインフォーマルサポートを期待できる場合。

実は、これらは数的には多いです。困難事例は振り回されたり、時間がかかるので数が多くみえますが、実は数的には多くありません。ですので数的には適している事例が多いので、現場で多に活用していただける実践的な方式と思います。

GSV、ストレングスアセスメント票をもとに、熱望・能力(過去行ってきたことを含めた能力)・自信(目標に向かって段階的に進む)に着目して、4つの側面に焦点を当てて質問します。こうすることで、利用者のゴールのためのアイデアについて、障害や欠陥にとらわれずに徹底的に話し合うことができるのです。

ストレングスモデルは、利用者と支援者との関係性が根本であり本質であるとしています。どういうことかということ、まずストレングスアセスメント票には、利用者の皆さんの言葉で記入します。専門職の評価は決して入れません。こうして継続してGSVを実施してきたことによって、自分たちがいかに利用者の皆さんの思いやニーズに勝手な解釈を加えてきたのかがよく分かりました。そして、利用者の皆さんともっとかかわりを持ちたい、利用者の皆さんのことを教えてほしいという気持ちになったのです。

NPO 法人じりつ代表理事 岩上洋一 氏

障害にとらわれず利用者の思いに近ずける

GSV グループスーパービジョン

ステップ1：ストレングスアセスメントの提出

事例提供者（利用者に関わっているスタッフ）は、ストレングスアセスメントのコピーをつくり、それを提出します。参加者（GSV参加メンバー）にストレングスアセスメントのコピーがいきわたらないまでは、この過程は働きません。

ステップ2：利用者のゴールは何か、私（事例提供者）がグループから特に必要としている助言は何かを伝える

たとえば、「秋山誠一さんは仕事に戻りたいゴールをもっています。私は彼の関心にあった仕事に戻るためのアイデアが欲しいと思います」、「清原智子さんはもっと友人を欲しがっています。私は彼女の友人が増えるためのアイデアが欲しいと思います」と担当者の支援者が必要としている助言を明確に言うことが重要です。利用者の目標がこの段階での中心になります。もし、利用者が特別な目標をもっていないなら、利用者にとって情熱的で意味のある目標を見出すような関わり方について、思いをめぐらすような質問をグループに話すべきです。この過程におけるポイントで重要なことは、チームが、成し遂げられることは何かに焦点をあてることを保ち続けることです。

GSV グループスーパービジョン

ステップ3：現状は何か、すでに取り組んだことは何かを簡潔に説明する

担当の支援者は、現状とすでに取り組まれた2, 3のことについて、5、6分で描きます。

ステップ4：ストレングスアセスメントから明らかにされ、チームが検討に必要としている情報について明らかにする

このポイントでは、ストレングスアセスメント票から読み取られる概観を、5、6分で概観することは有効です。それから、10～20分間で、チームは書かれていること、完全に掘り下げられていないことをより深く明らかにするために担当者の支援者に質問します。例えば、「ここに、祖母が協力的と書かれています。この人の人生・生活において彼女の役割をもっと教えてほしいです」などです。このセクションでは助言をしてはいけません。ここの目的は、クライアントの目標を達成することを助ける次のステップにおいて、創造的で特別な示唆が提供されるために、利用者についてより深い理解をすることです。

GSV グループスーパービジョン

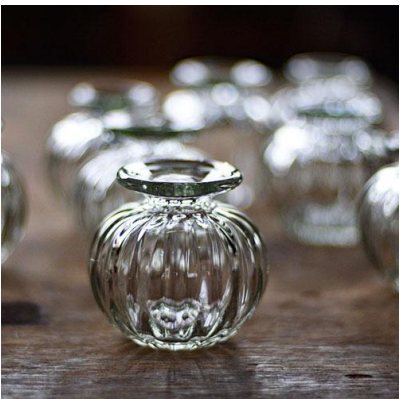
ステップ5：ブレインストーミング〈アイデアを出していく〉

20～30分間、チームメンバーはアイデアをブレインストーミングします。これらのアイデアは利用者の目標に関連していることが重要です。この場合、担当の支援者は、アイデアの評価をしてはいけません。「そうだが、しかし、……」といったことを言わずに、すべてのアイデアを書き留めなくてはなりません。ここの目的はチームが創造的で解決的指向であることを認めることです。いくつかの素晴らしいアイデアはしばしばアイデアづくりを始めてからブレインストーミングの終わりに向かって出てきます。よいブレインストーミングは20～40のアイデアを生み出します。

GSV グループスーパービジョン

ステップ6：示唆されたことに基づいたわたしのプランは何か

担当の支援者は、アイデアを検討し、それから次に取り組むステップを明確に表明します。たとえば、「こんどの木曜日に伊東明美さんに会います。わたしは、もし、彼女が地域との関わりをもっと得るような示唆を求めているならば、このリストをもって見せたいと思います」、「私は、石毛信二さんが動物好きなので、動物園に連れて行くアイデアを好みます。私たちがそこにいる間、彼の禁酒の目標について図るための動機づけをおこす面接技術を用いたいと思います。私はまた彼が酒を飲んでいない過去には彼にとってなにが支えていたのかを見出すストレングスアセスメントを作成するつもりです」というような形で、担当の支援者が出されたアイデアに基づいた具体的な支援プランを表明します。



魔法は本人のなかにある。

参考文献

『ストレングスモデル ケースマネジメント トレーニング マニュアル』

Basic Strengths Model Training Manual

Rick Goscha, Ally Mabry, Leslie Young, John Bomhoff,
Matthew Blankers, Kellie Spencer

『ストレングスモデル [第3版] リカバリー志向の精神保健福祉サービス』

チャールズ・A・ラップ, リチャード・J・ゴスチャ著／田中英樹監訳（金剛出版）

『相談支援専門員のためのストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル』

～サービス等利用計画の質を高める～

小澤温・埼玉県相談支援専門員協会（中央法規出版）

